

新型コロナは、おごった人類への警告かも！



Life Crossing

【乱れ打ちかわら版】あらため／季刊（創刊2001年）

2020年夏・61号

信条・世に媚びず・粹にとらわれず
・言いたいことはハッキリ言おう

発行／吉田 進

携帯 090-3168-1063

FAX 072-863-0605

〒110-0015

東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL : <http://www.kawaraban.ne.jp/>

E-mail : info@kawaraban.ne.jp



阪急電車・曾根駅前(豊中市)の商店街を歩いていたら、店内に大木が。「寄らば大樹の陰でっか」と言ったら、店主曰く「商売繁盛のご神木でっせ」

CONTENTS

世の中・社会・文明・歴史・家族・自分のことを書いています。

他に媚びず 楚々と咲きたる花見かな	…………… 2
国際結婚での生活・家庭感覚	アルブ京子… 3
だから、中国人は嫌われる	田辺 浩史… 4
新型コロナ肺炎感染について中国からの報告	
日系企業に勤務する中国人社員	… 5
岸信介と闘い孫 安倍晋三と闘う(下)	下山 保… 6
後手、後手首相にもの申す!	三田 栄考… 7
パリ発「コロナと私」	坂田 英三… 8 / 9
憲法と改憲を考えるシリーズ12	
新型コロナ対策と憲法	広田 正博… 10
奥羽越列藩同盟の悲劇	阿部 敏夫… 11

世界の国と街を訪ねて②	
古代5大文明グアテマラのマヤ遺跡	馬場 正雄… 12
水上瀧太郎『銀座復興』を読む	樟 喬太郎… 13
天のはからい	中田 恭子… 14
生存証明	前島 咲子… 15
LIFE CROSSING余録	…………… 15
編集後記	…………… 15
コロナ中の世界	
～ベーシックインカムと新社会ルール	
	増山 麗奈… 16

他に媚びず そそ 楚々と咲きたる花見かな



大阪ミナミのトンボリ（道頓堀筋）で客引きをする店員も



将棋の名人坂田三吉もびっくり
通天閣の灯も人も消えた



普段なら、ビリケン(福の神)の前でパチリ

コロナ国難

ゴーストタウンの中で

日ゼニ稼ぎの労働者は

「死ぬといふことか」と

吐き捨てる。言葉なし。

何ともパツとしない春である。新型コロナウイルスが世界で拡大し、3月10日WHOの「パンデミック」。4月7日には日本政府の七都府県へ「緊急事態宣言」が発令された。とにかく、不要不急の外出を自粛しろということである。多くが楽しみの花見の宴と縁、それに円も失った。だが一人で冒頭の花見をして、つくづく人間は自然の中で生かされている小さな存在である

ことを知った。

もともと、人類の歴史はウイルスとの格闘の歴史、人もものも金もウイルスも国境を越える。中国・武漢で発生した新型コロナウイルスが約3ヵ月で世界へ広がっても不思議ではない。逆に、それに打ち勝つには世界各国の協力が不可欠となるのは必然だろう。

一方、経済大国1位の米国と2位の中国は犬猿の仲。米国が「感染拡大は中国の初動

の遅れによる人災で、「武漢コロナウイルス」というべき」と言えば即、中国は「天災だ。武漢で流行をもたらしたのは米軍かも知れない」と応酬。中国の世界各国への医療支援に対し、米国は「野心を隠したポーズだ」と非難する。のち、感染度世界一の米・ニューヨーク州へ中国から人工呼吸器1000台が贈られ、クオモ知事が謝意を述べたという。

また問題の武漢は4月8日、封鎖を解除。米国の新型コロナウイルス感染者は4月7日現在、136万人、死者は7万5000人と世界ダントツというから皮肉だ。

その最中、北朝鮮はまたまたミサイルを発射した。全くあきれ返る。とにかく北東アジアは難しい諸国の集団だ。世界すべての国が連携しなければコロナに太刀打ちできない。ならば「災い転じて福となす」ために協力し、助け合い長い道のりを歩むしか打開策はない。コロナは国境を越え、より貧しい国々を直撃し、その被害を拡大させる。今こそ人間の優しさや共感が必要な試練のときである。

国際結婚での 生活・家庭感覚

フランス・ナンテール市在住 アルブ京子



パリの八百屋

日本の方達はまだ「家事は女性の仕事」と信じ切っていませんか？実は、ヨーロッパに移住して28年の私も未だそういうところが間々あります。家事が出来てないことに心がチクチクすることが時々あるんですね。その都度「相手方（ルーマニア人）は大人なんだ。」と自分に言い聞かせるといような状態です。

結婚する時の彼への条件は「料理」と「日本語」を学ぶでした。相手は私と同じ考えではない訳ですが、必ず協力してくれませし、忙しくて食事を作り忘れても自分で支度します。例えばお客さんが来るとなると「家を片付けなくては」と私がパニックになっていたのですが、相手は「普段から片付けてれば良いだけ！」とは絶対に言わずロツクミュージックをかけて一緒に片付けてくれます。しかし、それは家を片付けること自体が目的ではなくて、私の自己満足の為だったのです。家事分担は得意不得意、気持ちの余裕が有るかないかも含めて、適宜に分担しています。家事分担を決めず、それぞれが全部こなせることこそが大事だからです。最終的に二人とも嫌いなのがアイロンかけですが、彼はワイシャツが必要な仕事で、今では私より上手です。つい最近洗濯物

を畳むのは彼の方が上手という嬉しい発見もありました。

西洋人とアジア人の 交じり合い

日本で勤めていた建築会社では女性差別が全くありませんでしたので男性と同じ仕事をし、同僚とも大変楽しく働けました。しかし、社会全体における女性の限界や同僚達の奥さま達がいっつも夜中に帰る夫を子供達と待っているのを目の当たりにしていました。

では他の国はどうなっているのか？と1992年ジュネーブに移住しました。日本勤務のスイスの友人達の言動に



相手が生地から作ったピザ

大きな違いを見ていたからですね。「どうして、こんなにも違うんだろ？」と

うなづけるんだらう？」と。時を重ねるにつれて、日本人は日本という国の人質に見えます。「外国語が苦手」、「政治」も「歴史」も分からない、何よりも「議論しては

いけない」と叩き込まれているのに気づきました。ヨーロッパ人はかなり激しい議論をしますが、相手の意見に納得できなくても「新しい情報を得る」、もしくは「考えが違うことを認め合う」それだけです。それは個人的関係には全く影響ないのです。言いすぎた場合、かえって仲良くなってしまう例も間々あります。考えが違う人たちと生きていくということはこういうことだと。

私は「世界は混じり合うためにこそ動いている」と、ずっと思っています。違う文化が混ざるとみんな辛い。でも人間文化として新しい素敵なものが生まれる可能性がります。そして、東西の交わりはまだ初期段階だと感じます。まだまだ理解が浅いと感じます。日本人（東洋人）も西欧を知らないし、西欧人も東洋を知らないと思います。まだまだ勝手なイメージを作って、ただ真似事をしていくように見えます。便利で合理的な西欧の考えをアジアにそのまま持って来るのは当然無理があります。しかし、それぞれの状況と結果をじっ

くりと見ることで、自分たちの状況に合わせた良いものを作り上げることが出来ると思います。つまり、東洋と西洋はまだ出会っていないというスタンスで辛抱強い個人の交わりが必要な時代になって来ているのかもしれない。

日本ではまず「家庭改革」を

こんな日常から日本を見てみると、日本に必要かつ有効なのは「家庭内革命」ではないかと思うようになりまし。最近「呪いに掛けられている」という言葉を見かけます。本当にそうです。勿論男性も同じです。私にとつてのカップルとは時間を掛けてそういう呪いを二人で解いてそれぞれの自己解放を手伝い合えるという可能性を秘めています。役割が決まっていると話し合う必要がなく、お互いを知ることなく、遂にはお互いに興味を持てなくなる。当然です。日常のことを話していくうちに、いろんな問題もすんなり話せるようになってくるんだと思います。引いては政治は生活そのものだからということも見てくるんだと思います。

だから、中国人は嫌われる

大阪 田辺 浩史

コロナウイルスの影響で、街から中国人は消えました。が、2019年には約1000万人の中国人観光客が日本を訪れました。東京、大阪、京都などの主要都市だけでなく、日本全国で無遠慮に振る舞う中国人に誰もが閉口した事があると思います。しかし、海外からの訪日観光客の1/3は中国人です。し、日本の輸出額も輸入額も最も大きいのは中国です。

日本の経済と中国はこんなに重要なかわりがあるのに、どうしてこんなに中国人は嫌われるのでしょうか？

私は仕事の関係で2000年から年に15回くらい、つまり累計で300回くらい中国に出張しており、中国のいろんな地方に行き、様々な方々



中国人は文明的に並びましょう

に会ってきました。その中で中国人の考え方を理解する事で、中国人の行動にも腹が立たなくなりましてのでみなさんにもご紹介したいと思います。

順番を守らない中国人

根本的な考え方が違うのですが、日本人は「物事のスジ」



われ先に突入する中国人

ら、並んでいるところに横入りしてきます。一方で日本人はどんなに急いでいても、「順番は守るもの」(原理原則)で行動をします。

ですから、中国では順番を抜かされた人も「あ、この人は急いでいるんだな」という感じで順番を抜かされても争いにならないのです。

面白いのは、中国人は地下鉄で席を確保する為に、ホームで並んでいる順番なんてお構いなしに席を奪うのに、お年寄りや妊婦さんが来ると、あっさり席を譲ります。

これも、自分は座りたいという(現実)によって、席を奪い合うのですが、自分よりもっと大変そうな人がいるという(現実)に従って、席

を譲るのです。

人に迷惑をかける中国人

中国の高速鉄道(新幹線)の中で中国人のうるささは凄まじいものです。

席に座ったまま、大声で電話で話すのは当たり前。ひどいのは、スマホで映画をイヤホンもせずに大音量で見ている人もたくさんいます。

「大きな声で騒ぐと他人に迷惑をかける」と幼少のころから教えられた日本人には信じられない行動ですが、中国では自分が話したい、楽しみたいという(現実)しか考えてない人が多いです。

また、中国では幼少の頃から「自己主張をしろ」と教えられます。

人口が13億人もいるので、自己主張をしないと競争に勝ち残れないからです。自分を主張する為に、大きな声を出す習慣が沁みついているのだと思います。

謙虚でない中国人

中国で商売している日本人がよく使うエピソードで「中国人の没問題(メイウエン

テイ)は有問題(ヨウウエンテイ)」という言葉があります。「大丈夫!問題ないよ」という中国人の言葉を信じて後々に必ずトラブル(問題)が起こるよという戒めなのですが、これも日本人と中国人の考え方の違いから生じる事なのです。

日本では謙虚である事を美德としています。

相手にお土産を渡す時でも「つまらないものですが」と言いながら渡しますよね。

中国では「これは物凄く貴重なものです」と言いながら渡す人が多いです。

これも、中国では自己主張が重要だと教わりながら育ったからだだと思います。

中国では大丈夫! 問題ないよと言って仕事を取らないと競争に勝ち残れないので、やれる自信がなくても問題ないと言ってしまうのです。

是非、この様な考え方や習慣の違いを意識しながら中国人と接してみてください。

きっと、中国の人も親切で良い人が多い事がわかって頂けると思います。

新型コロナウイルス肺炎感染について

中国からの報告

日系企業に勤務する中国人社員

20年1月中旬から武漢で感染がみつかりました。蔓延状態をコントロールするため、武漢市は1月23日に封鎖されました。こんな強い対策がとられても、武漢市の全感染者数は5万8人になり、中国全土感染者数の約60%です。もし武漢市を封鎖しないと、全国の感染者数はもっと増えたという考えが多いです。ある意味では武漢市はよく耐えてくれました。全国他省の庶民は感謝の気持ちを持っています。

何万人もが感染し、武漢の各病院は殺到した患者への対応が間に合わず、最初の予防対策も不十分でした。複数の医師も感染し、武漢の医療は崩壊寸前になっていました。この危険な態勢をコントロールするため、全国から4万人以上の医師と看護婦が武漢市に派遣されました。この新型コロナウイルスは特效薬がないので、病状経過を観察研究しながら、どんな治療法が最善か医師たちの模索が続きました。このコロナは人の呼吸機能を損なうため、呼吸器、人口肺など呼吸機能関係の医療設備は膨大な量が必要になりました。武漢ではこれらの機器が圧倒的に不足しており、全国から武漢市に呼吸機能に関係する医療設備が搬送されました。

武漢市以外では、感染拡大を防ぐため全国ではいろいろな対策が行われました。①住民は特別の用事がなければ外出しないこと②公共の場所では必ずマスクをかけること③人々は集まらないこと。自分が住む町以外に行くことは不可能でした。

旧正月のお祝い行事は全部キャンセルされました、隣とも触れあわないことになっていました。私個人の体験ですが、旧正月休みが終わって、状況が比較的好転した省では、仕事場に戻る話があり、私も江蘇省の故郷から新幹線で上海事務所に出勤しました。事務所の入口に警備員が立っており、出勤してくる各会社の社員に、役所の許可がないと事務所建物に入れないことを説明していました。事前連絡なしで困っている人、各社の社員達が文句を言っても許可されませんでした。私は申請手続きを行っていましたが、なかなか許可はもらえなかったため、数日間後に、また故郷に戻りました。



中国での病院と大手企業の入口検査風景

戻るときは、故郷の電車駅出口で再び面倒な申告手続きを行います。何時間、どこから戻った、電車の番号、動いた場所、体温を測ること、連絡方法、詳しい住所、家族状況、個人の体調状況、携帯で14日間に行った場所は、その場でチェックと確認することなどでした。

それに、翌日、町役所から電話があり申告内容の再確認を行ってから、家族の状況を確認されました。体温は自分で測って申告しました。その後、役所担当者に嚴重に告げられた。今の地元対策により、この町以外から帰った人は必ず14日間、自宅隔離が必要です。買い物などは家族が行うことです。もし私が了解なしに家を出ることが見つかったら、次の対策は役所が強制的に14日間隔離します。

グローバル化した世界は友好関係が大事です

〈前回号で私は旧満州で辛酸を舐める幼少時代を過ごし、昭和21年に帰国したお話をした。満州での生活はその後の私の人生の底流を成している。今回はその後から今日までの経緯を報告します〉

岸信介と闘い 孫 安倍晋三と闘う(下)

パルシステム生協OB・東京江東区 下山 保

帰国後の私の生活は、戦後どこにでもいた貧乏人の暮らしだった。長男として父の自転車屋を継ぐべく工業高校の機械科に入った。しかし東京で勉強をしたい気持ちを捨て



筆者も参加した60年安保闘争、日本の革新陣営がこんなに元気な時代もあった

がたく、両親を拝み倒して58年上京した。二輪車の修理整備工場に住み込み、夜は早稲田まで都電で通った。学生運動に染まったのはすぐだった。原水爆実験反対運動が盛んで、すぐに自治会の役員になっていった。修理屋を出てアルバイトで生活した。60年安保闘争の時は、大学ストライキを指導して除籍になり、学生デモで逮捕歴数度、拘留所暮らし一度の経験をした。ストライキで全国紙に顔が載り、母親から「もう帰ってくるな」と手紙が来た。

その後社会党の書記を9年続けたが、事情があつて退任し、その後は江東区南部で住民運動に取り組んだ。この住民運動の中で生協を創設し、それが今日のパルシステム生協になった。パルシステムを離れた以降は反改憲や反原発

の市民運動に参加している。安倍首相との闘いは2006年の第一次安倍内閣成立後、改

安倍家の夢

政治においても評価された日本の政治しきたりや経済政策における人間的配慮を酷く切り捨ててきた。

これは本人の性格だけではない。政治家安倍家数代にわたる血筋に裏付けられた「安倍家の夢」という歪曲した目標があるからだ。だから大企業を大幅減税しその分中小企業にシワ寄せし、併せて大量の貧困者を生み出し、あるいは原爆被害国にもかかわらず核兵器廃絶条約に反対することも出来る。トップが恥知らずを長く演じているうちに、多くの日本人もその一員でいることが恥でなくなつてしまった。かつては間違いを退ける反発力が政界にあった。メディアにもあった。民衆にもあった。独裁政治は決して自然になつたのではない。

なぜそういう欠陥人間がトップを張っていられるのか。大東亜共栄圏をめざした官僚トップ「祖父岸信介」の意志を継ぐ者という、独善的な自尊心が根源ではないか。トップ自らが平気で際限なく嘘をつき、長期にわたって非人間的政策を取り続け、保守

による執拗な「メディア苛め」に屈した「メディアの偏向」にある。

だから、植民地支配からの脱却と言う理屈で、米国支配を望む権化のような人々がナショナリズムを煽り、戦争や侵略を知らない人々や侵略を信じたくない人々の共感を得ることに成功してきた。それは教育を変え、メディアを変えることで成功した。

かつて岸内閣を倒した我々であるが、孫の安倍政権との対決ではほぼ一方的に敗北を喫している。原因は明確だ。岸を倒したのは当時の20代の若者だ。現在の20代30代の人々が立たなければ安倍政治に勝てない。しかしこれは至難の業だ。なぜなら、安倍を盲目的に支持するのは、歴史を学ばず人間的な心を養わずモラルの尊さを知らずに来た若者たちだからだ。この人たちが安倍やアベ的な人たちに反抗するには、いまだ安倍から享受していると思つていない。果実を手に入れられない経験をしなければならぬ。私はドンキホーテになって、80歳代にしてどこまでやれるか分からないが、安倍との最後の因縁闘争に入っている。

後手、後手首相にもの申す!

東京 三田 栄考

右を見ても左を見てもマスクの花盛り。おまけに安倍首相は小生らの税金で布製マスクを全家庭に2枚郵送する英断(一)を下した。2月初めに



緊急事態宣言を受けて4月9日の銀座7丁目のまばらな人影。こんな日が来るとは…。要請だけで8割減できると思っているのか？

マスクを大量に作れと決めておけば品切れで取り合いません。ことはなかつたのに。消毒液もそうだ。1月末には素人も品切れが予見できたのに。

少なくとも1ヶ月は政治の判断が後手になった。今ごろになって小さいマスクではだめ、首相のマスクは小さかったとか。確かに顔半分隠すマスク、端から飛沫

が飛び出さない(?)のが主流になった。マスクマスコットというならもっと早くから研究し周知させとけよ。マスクより顔を触るな、手洗いを、咳やくしゃみは腕で防ぐなどが効果的だ。(証明は難しがるが)3密接触でなく普通の接触で大いに感染したとは聞かないぞ。政治家やマスクメディアが騒げば右へ習えと無自覚に走り出すのは怖いもんだ。ある意味彼らは騒ぐのが仕事だ。後刻に注意や指導が足らなかつたと批判

されないためにもオーバーに騒ぐ。これを振り子の過剰反応と指摘したい。だったら台湾がしたように、武漢で新型コロナウイルスが発生したと公式発表



酸素ポンペを買い求める人も多い

したら直ぐに武漢からの訪日者を拒否すべきと騒ぐべきだった。クルーズ船の密室船内に長く閉じ込めないで、多数の感染者を船外で隔離せよと騒ぐべきだ。ましてや陽性でないからと公共交通機関で帰宅させる愚を放置すべきでなかつた。決断は難しい時点ですべてこぞ政治家の決断と云える。小生がクルーズの外国人客なら妻が船内感染で死亡したら日本政府相手に《不作為だが殺された》と訴えるだろう。クルーズ船内こそ3密の典型ではないか。なに?! 3000人の船内の人を受け入れるホテルが無かつた? 自衛隊の宿舎や役所の施設をそれこそ取り込む権力を発揮すべきだった。

日本国で決断できたのは 安倍晋三首相だけだったのに

緊急事態宣言からパンデミックまで感染拡大した日本。2月には中国に始まり、韓国や西洋までが1万人を超える感染者が出たのに殆ど国家として手を打たなかつた政權、安倍首相が腹立たしい、憎い。習近平を国賓として迎えた故にコロナの蔓延を過小評価してきた。3月5日に断念してやっと全国的に動き出した。が、かつこ良くオリピックの開催国首相を演じたから開催断念も3月24日まで延ばしてしまつた。この失われた3月のひと月こそ欧米の危機を他人事とせず、学んで現在の4月段階の熱意で医療や病院の早急なる充実を図っておくべきだった。4月7日にやっと非常事態を宣言したが、遅きに失したという世論が75%だった。北海道は30代の鈴木直道知事が3月1日に独自の緊急事態宣言を発している例があるのに、専門家はこのような決断は早い方が良いと促してきたのに、対コロナの特措法を早期に成

立したのに、どうして遅れたのか? その宣言を読む首相の声は確かに落ち着いて一国の首相に相応しいとも言えた。が、我々の心を打つものではなかつた。よおし、この首相の方針に協力しようとの思いが湧いて来なかつた。ネットでは首相は笑つていたと揶揄された。諸外国のリーダーは本人達の心底の呼びかけに聞こえたのに。『コロナの未曾有の闘いに、自分は政治生命をかける、改憲も四選も断念するから国民は政府の闘いに全面的に参加』して欲しい。——くらいの決断が必要だ。7割、8割の対面人の削減は職場の閉鎖をしなければ夢物語。大企業のために株価を支える日銀の「虚大投資」よりも、国を挙げての補償をしなると職場閉鎖はできないぞ。経済停滞をびびって中途半端ばかり繰り返すから、ずるずる拡大して底無し沼に落ち込みつつある。4月10日、日々感染者の新記録が更新されてどこまで広がるかの不安を抱く毎日。トランプと同じ轍を踏む安倍首相を恨みつつ原稿を書き直した。

パリ発「コロナと私」

在仏・美術作家 坂田 英三

37年間、パリで生活されている美術作家・坂田英三さんが、新型コロナウイルスで考えたこと、政府の対応、人々や町の空気などについてブログ「パリ発ARTY CIRCLE AREO」で発信されています。

3月19日(木)
**トイレも食事も
できない
運転手たち**

コロナウイルスの感染拡大を阻止するため、フランスでは自由に移動ができなくなりました。

日曜日には寛いだ人が多かったらしく、政府は「国民は重大さがわかっていない！」と憤った。その前は「握手や挨拶の頬つぺたキスはするな」だったし、選挙は行われたし、深刻さが伝わらなかつたのは当たり前でないか？どうも大統領、首相コンビは一般大衆の心理・行動が読めなさすぎる。その結果、「お籠り」の住まいを決め、必要不可欠なこと以外には移動しないこととする政



自身の作品と坂田英三氏 (写真家・Yoann Legros氏撮影)

を逃げ出し、そこを「バカンスとちやうんやー」と罰したい？ 他人と距離を置いて「うつつされない、うつつさない」とする原則の論理性よりも「挙国一致」の精神性がまさっているように思う。

令をだした。「仕事」「治療」「買い物」など、他人の1m以内に近づいてはならない。今日は最高気温も20度になってジョギングする人が多く、またも政府は御冠おんかん。「お籠り」の住まいから1km以上離れてはいけないそうで、セーヌまでたどり着けない。田舎に家のある人はパリ

この数日の感染者の激増は恐るべきもので、政府のとした対策は当然だが、「ミスを感じて人にあたる」ってことであるでしょ。ミスとはこの感染拡大を見込めなかったこと。疫学的予報は極めて難しいのでそれをとやかくいう気はない。単純に彼らの言い方が気に入らない。いつも全く必要とされないことしかしていないアーティストが「必要なことはするな！」と言われると立つ瀬がなくて……、わからんだらうなこの気分も、フリーリップ君(注・首相)。そして政府が国民を厳しく

叱った結果、パン屋では、前が買ったから一歩進んだ次のお客に、前の客が「イチメートル！」と怒鳴るほど、ほんのちよつとのことでも感染してしまふと脅えている人も少なくない。報道なども一転して「塾居ちゅうきょ、塾居」。

建築労働者とかトラックの運ちゃんなどは、マスクや手袋を支給されるわけでもなく危機感を高めている。特に運転手は高速道路のサービスエリアが閉まってしまい、食事もトイレもできない事態に。

引き籠りがちな私だが、先月末から展覧会の宣伝も兼ねて色々なところに出かけ、オープンングの日も延べ100人の人に会い、最後には数人とハグもし、その晩はレストランへ10人ほどで食べに行き、リスク多き行動を続けていたこともあり、熱っぽいような気はするし、変な咳もしているような気がして、「明日起きられるかしらん？」と怯えてしまふのだが、昨日も今日もよく寝た？(笑)。

3月23日(月)

パン屋の主人は工用マスク

スエーデンは日本と同様(？)厳しい制限をせず「集団免疫

策」をとっているのでフランスは非難している…この国は自分たちが常に正しいことをしていると信じているようだ。

昨日はまだ朝市が許可されていて、肉屋さんでは客がウイルスを食品に飛ばさないようにラップを貼って防御していたが、肉屋さん自身はマスクなし。パン屋さんは長蛇は長蛇でも1mおきだから実際は普通の4分の1程度の人だった。パン屋の主人は工用のマスクだ(ウイルスは難なく通過する)。酒屋に入ると、主人と客が1人。スパーよりまったく安心と思える。だが多分これも近々禁止されるだろう…ワインが生活必需品とはみなされないだろうから。個人的には自分で勝手に決めた「ゆるい」ルール(マスクはしないが人との距離は守る)で行動している。厳しい人たちは外出を避け、我が建物の中のアトリエ前の中庭を巡回している。まるで囚人だ。だから囚人のいる時は出ない(急に玄関を出るとこういう人は飛び退く。あるいは踝を返す。本当の囚人は「中庭散歩」もできなくなつて監獄は圧力釜みたいになつていらいしい)。毎晩8時にバルコニーに出て拍手喝采で医療従事者

を励ます市民的運動があるのだが、私は1階だから上からの飛沫がいつぱい降りてくると思つて、心で感謝するのみ。国境を越えると言葉が変わり生活様式も変わる。日本が意外に状況悪化しなかったのは何でも袋に入れてくれる超清潔主義故かも？フランス人は手もあまり洗わないし、駅で手すりなどを拭き掃除するのを見たことがない。伊西仏が危ういのはそのせいかというのは単純だろうが、初期条件としては意味を持っていると思う。

3月26日(木)

人々はタオルを取り変えているか

「また叱られた？」…これが私の昨日のマクロンの演説を聞いての印象。従順たる国民(でもないか)、団結すべき市民として、かつ専門家でもないの「なぜマスクもテストもベッドもこんなに不足することになったのか」や「中国でも試された新たな処方への押さえつけ」などの政府批判はせずに関連テーマで。

この数年男性ファッションで髭もじゃもじゃがはやってるのだが、あれはウイルスの飛沫が付着するので衛生的

ではない!あんな髭して密着マスクなんかができるか!

酒屋が閉められそうなのは必要不可欠な食品店ではないからと思つていたら、問題は「蟄居」による家庭内暴力のため。夫婦が24時間顔を突き合わせていたら危うい。アルコールは暴力をそそるし。

一般のフランス人はタオルを頻繁に変えているのかな? 政府のお達しは「ハンカチを使わず使い捨てのティッシュを使い」「くしゃみは肘で押さえろ」「石鹸かアルコールジェルで手を洗え」と超初歩的な衛生レベル。石鹸で手洗いしても同じタオルだとよくないよね。昨日から自己申告の「外出証明書」が変わつて、買い物でもスポーツでも日付のみならず時間も書かねばならなくなった!

3月30日(月)

「空気中を漂っている」

土曜に首相の「禁足令の2週間延長」を告げる記者会見があった。従えた専門家、パリの病院の感染医科チーフが話すに「謙虚に、知らないことが多いことを認めねばなりません。ウイルスが生活環境に存在するか、空気中あるいは物の表面で長い時間生きて

いるのかわからないのです」。私はびっくり。慌てて調べてみたら、ウイルスが微小粒子にくっついて浮遊し肺に入つて重体になるという説も。ならば私の防御はお手上げだ。

ところでこの説で「東京」が引き合いに出されたのは、学校閉鎖以外28日の外出自粛まで人々が街にくりだしていた日本で感染が爆発していないのが「世界の謎」だからだ。今日、「ヨーロッパの謎」も発見。それはポルトガル。大惨事の隣国スペインの犠牲者6733人に対しまだ119人(記事は3/28付)。ポルトガルにも「蟄居令」は出ているが、罰金も外出許可書もない。同国コスタ首相によると「ポルトガル人は規律正しいから抑圧措置は不要」おお?! このウイルスが猛威を振るつた後には規律の正しい国民ばかりしか生き残らないとすると面白くなるな。だからもう……:てことはありません。まだもう少し生かしてもらいたい。

4月1日(水)

マスクとコロナの

オーバードーズ

ヨーロッパではインフルエンザに対するマスクはゼロに

近かったが、この数日かなり見かけるようになった。

ヨーロッパのみならず、WHOもマスクの有用性は認めていないようで、アジア各国でマスクをするのは文化性の違いと片付ける傾向がある。政府のお達し「咳・クシャミをするときは肘で押さえろ」を鑑みると、マスクを奨励した方が絶対に効果あるのは明白。なんか衛生論理のレベルが無茶苦茶なんだよな。

パリに来てはや37年、「マスクが常識」という「文化」をすっかり忘れた私、昨日久々に着用してみたところ、効果観面(?)、していない人が急に危険に見えてきて警戒一気にアップ。

今朝、全然起きられなかった。中国からのマスク空輸便の到着や患者をベッド数が足りないパリ地域から地方に輸送するというニュースがあるかと思うと、それに憤慨する医者がいったり、FBでもコロナの花盛り、この毎日流れ込む大量の情報と付き合っているから明らかにオーバードーズ(過剰摂取)、切れた!

4月4日(土)

マスクの復讐(復習)

オーバードーズのため制限

したラジオだが、昨晚つけてびっくり、医学国立アカデミーが、「監禁解禁の時期にはマスク着用は義務化するべき」と表明。

これを機にまとめ…普通のは、外科医が自分の息で手術患者に菌を「移さない」ことを目的にする。コロナの重体患者がひしめく病院では空気中にウイルスが浮遊すると考えられるので、それを吸い込まないマスクでなければならぬ。この両方向(他者も自分も)防御可能なマスクが世界中で不足、普通なら何千円のものだが今や値千金。中国からフランス向けだったマスクが上海の飛行場で高値の現金取引でアメリカに買い取られてしまったとか……(当然合衆国政府はそれを否定)。

このスキヤンダルの前に中国からイタリアへ向かうマスクが經由地のチェコで没収されてしまったという「ヨーロッパの脆き団結」を物語る事件が起きた。チェコはすでに「公共の場でのマスク着用」を義務化していた。そしてその政令がでたのはCNNで追ってみたら3月17日で、マスク没収(チェコ政府によると盗難)事件と同じ日だった!

新型コロナ 対策と憲法

元大阪府職員 広田 正博



兵庫県豊岡市出石町出石城址にて

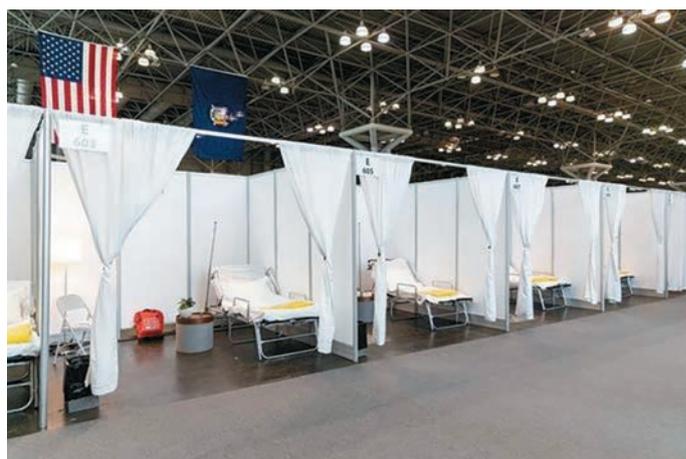
3月中旬になっても新型コロナウイルスの感染騒動は収まっていない。総理の小中高校の一斉休校要請で学校現場は大騒ぎだし、共働きや一人親はどうしたらいいのか大変な日々を過ごしている。国によっては緊急事態宣言を出して外出制限までしているのは、戒厳令に近い。

新型インフルエンザ等対策特別措置法が改正され、外出

規制や民間土地建物を強制的に取り上げることすら可能となったが、憲法では認められるのだろうか。これで総理の一斉休校要請が認められるのだろうか。

憲法そのものは103条しかないのですが、詳細に書かれてはいないので、こうした事態にどうしなさいというものはない。憲法では第13条で個人として尊重される幸福追求権、第21条の集会の開催等の表現の自由の保障、第22条の移動の自由、第25条の健康で文化的な最低限の生活を営む権利、第28条の労働者の団体の行動権等、第29条の財産権の保障等を見れば、国や地方自治体が個人の権利を、法律や条例によって抑制することすら避けるべきである。

それならば、新型コロナウ



ニューヨークは都市封鎖か？
トランプ大統領は「コロナに勝てる」と油断していたために爆発的に感染者が拡大し、体育館も急速改造して簡易の病院のベッドと化してしまった

である。

今回は中国から入ってきたことは間違いない（武漢かどうかは不明）だろうし、早い時期から防疫法等に基づいて、入国制限や検査等の必要な措置を行うべきであったが、後手に回ったことで、国家主席の来日やインバウンドの収入減等で対応が

遅れたという批判が出てきたのは仕方がないことだと思ふ。総理はやはり問題点の分析と反省を先送りすることなく、適時にしていかなないと次の事態に教訓を生かすことができない。先送りすれば、誰もが忘れ去り、似たようなことで同じ失敗を犯す危険がある。被害が小さい段階なら、権利を抑制された人にも補償は行いやすいし（憲法第29条第3項の損失補償）、幅広い人が被害を受けると補償もさられないのは、戦争被害者が補償されないことで明らかだ

う。

新型コロナウイルスといっても、今はワクチンがない、治療薬がないという不安があり、大騒ぎになっているが、新型インフルエンザも過ぎてしまうと、普通のインフルエンザになっていくところから、同じ道をたどると思われる。感染力は強いが、感染した人が重症化しにくい（無症状の人も多い）ので広がりやすいだけ。高齢者等の重症化しやすい人を入院しやすいように医療体制を強化する必要があり、現行の医療機関の対応を変えることでなんとかする。そのために、国や地方自治体が資金支援すればいい。

結局、国のトップの判断ミスで、事態が悪化し、それをカバーするために法改正し、緊急事態宣言を出して、権限を中央に集中させることで、現場がわからないまま、多くの人の権利が制限されることは、憲法が想定する社会の在り方ではないし、社会的にも経済的にもマイナスになる。この一文が出る頃には、緊急事態宣言も出されず、事態が収束されていることを願うばかりである。

会津は悲しんだ。武門の意地もある。何故朝敵なのだとの思いは藩主松平容保を強く刺激した。新政府は会津藩の恭順を認めなかった。降伏を認めない戦争などあるのだろうか。慶応3年10月、徳川慶喜は大政奉還を表明し朝廷は認可する。

だが新政府軍（主に薩長軍）は積年の恨みがある。何としても徳川慶喜と松平容保を刑死に追い込まなければ幕府はまた復活するかも知れない。この思いは特に西郷隆盛に強かった。黒田清隆も賛同している。

会津戦争は悲惨を極める。会津藩家老の西郷頼母邸では女性21名が自害する。

仙台藩と米沢藩が奥羽25藩、越後6藩をまとめあげ奥羽越列藩同盟を成立させるのは会津藩に同情したためである。

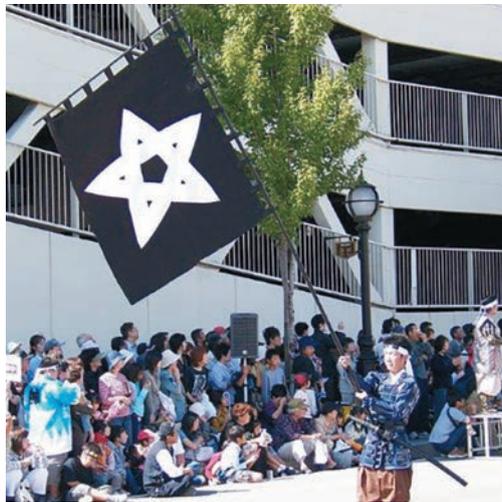
戊辰戦争で没収された東北諸藩の領地を調べると、よく解る。仙台藩（伊達慶邦）62万5千石から28万石に半分以下、盛岡藩（南部利剛）20万石から13万石、米沢藩（上杉齊憲）18万石から14万石に。そして会津藩（松平容保）

は23万石から何と20万石を減じ、新石高は3万石に。青森県むつ市近郊の斗南藩に転封させられる。不毛の地で藩士の生活は凄惨さが際だつた。

戊辰150年を記念して山口市（長州）から先年、和解の申し入れがあった。会津若

奥羽越列藩同盟の悲劇

東京 阿部 敏夫



会津祭りに列藩同盟の旗を掲げる

松市は遠慮すると言つて、これを断る。会津の若者たちは、あの時の悲劇を忘れな。親が子に、そして孫に、決して忘れるなと教えるからだ。今でも会津では戦と言え、太平洋戦争ではなく会津戦争を指すと言ふ。後者の

死者の方が多かったからとか。戦争の非道さを語る時に先の大戦に例をとらなくとも日本人同士の内戦で、その事実を顕わにしている。死体の始末さえ禁じられた地元の怨嗟は未だに尾を引いている。歴史の事実は変えようがない。

い。それでも徳川政権が続いていたなら太平洋戦争には至らなかつたと考えるのは私だけだろうか。

幕府側にも有為な人材が多かった

例えば次のような政権は無理だったのか。天保14年（1843）民主政治の体現を目指した阿部正弘。四賢侯といわれる薩摩藩主格・島津久光、前越前藩主・松平春嶽、前土佐藩主・山内容堂、前宇和島藩主・伊達宗城。この4人に加え、徳川慶喜。実務は阿部正弘。それまでの幕府側には勝海舟、榎本武揚、小栗忠順、川路聖謨、そして河井継之助など多士済々。だがこれは後世の理想論か。榎本武揚がその後、新政府で活躍するのを見る時、必ずしも夢ではなかつたのだ。

西郷隆盛の認識は徳川政権を完膚なきまでにたたきのめさなければ新しい時代は来ないとの信念だ。島津斉彬が慶喜を渴望していた必然は何処で違ってしまったのだろうか。

確かに海外列強の軍事力を増強し清国の例を目前に無防備ですむはずはなかつたのである。それでも新政府の陸軍を長州が担い、海軍を薩摩が独占的に担当したのは性急に過ぎた。「坂の上の雲」を指すよりも、「坂の途中の雲」で妥協する道はなかつたのだろうか。

アメリカのケネディ大統領が賞讃した上杉鷹山の藩校、米沢興讓館からは明治期に多くの軍人を生んだ。太平洋戦争での真珠湾攻撃の南雲忠一、日露戦争で日本海海戦の指揮官、山下源太郎など東北諸藩にも有為な人材は多かつた。

最後に米沢藩士の雲井龍雄の「討薩の檄」を紹介したい。これは長岡藩家老、河井継之助の「口上」と共に、二大名文として評価されている。当初、薩長が掲げた尊王攘夷は米、英、仏の現実の前に急速にその姿を変えていった。この檄文はそこをついた。奥羽越列藩同盟の成立を識った雲井は輪王寺宮一行を会津に送る。そのあと米沢藩千坂総督から河井継之助（長岡藩）、佐川官兵衛（会津藩）の同意を得て列藩の結束を強める。会津を助ける。この一点からまとまった同盟は会津の落城によってその使命を終わる。二本松少年隊や会津白虎隊の悲劇を残して。

明治3年（1870）12月26日、雲井龍雄は謀反の罪を得てきゅう首。27歳。すがすがしい短い一生である。

古代5大文明

グアテマラのマヤ遺跡

大阪中央区 馬場 正雄

グアテマラと言ってもどこなのか知る人は少ないでしょう。かく申す私も同じだった。メキシコの南の国境は全てグアテマラとご理解いただければ結構。さて、マヤ遺跡最大のティカルに向かう私が乗ったバスはジャングルの入口で止まりガイド氏は団体のチケットを買いに降りた。再び走り出した。左右緑の木々が生い茂る中をいつまでも走り続けた。所々に「飛び出す動物に注意」のホエザル等の絵看板が見える。おいおい、いつまで走るんかいなと思う。私はふと、今の時代でもこんな密林の奥深く行くのは大変なのに、千年前の往時なら獣がうるつく中を地方の邑から王都に辿り着くのはどんな



グランプラザ(大きな広場の意味)のⅡ号神殿
ここも別製階段で登れる。この神殿を作るためにどれだけの
人々の労苦があったことか。文明とは一方では権力の発露の
ように思える

に困難なことだったろうか？いや、昔は地球上どこもが生活することすら容易なことではなかったのである——などと考えていると10分余してやっと着いた。しかし、それからまた暑い中を歩くこと歩くこと、やっとV号神殿と7つの神殿の広場に着く。16世紀にスペイン人に再発見され

た当時の写真をみると建設された6世紀以降から数百年の間に自然の木や草が石の三角錐の建造物の大半を覆い隠していて今、我々が見るピラミッドは想像できないかかったのではないか？そしてマヤ文明遺跡を発掘者が藁・木を払い復元してくれた姿を今の私達は見ている。

65mのⅥ号神殿に昇る。と言っても石段をよじ登るのは危険なので横に取り付けられた木造階段170段登り切ると、見晴らしの良い基壇の頂上にはいつも観光客の和らいだ声が出る。眼下に木々の中から顔を出すティカル遺跡の中心であるグラン・プラザを眺望する。紀元1世紀頃にこの地に王朝が成立し800年の間に33人の王が君臨し6万人ほどの大都市が栄えていたそう。そもそもマヤ文明は北はメキシコのユカタン半島からグアテマラと南のホンジュラス周辺に紀元前8世紀頃に住みついたマヤ族(今もその後裔は800万人生活している)が、一つの大きな統一王国でなく緩やかな連携をもった王朝が幾つかあったと推測されている。

密林の中に眠っている遺跡

上空からレーザースキャナーを走査させてそのままの



十字架のある丘から基盤目の古都アンティグアの町を見る。日本の京都みたいな雰囲気か。300年の都。

遺跡が新たに発見されている。4400の遺跡が発見されており、最盛時の人口は1000万人と推測されるようになった。

大広間の意味のグラン・プラザはティカル遺跡の中心だ。Ⅰ号神殿は8世紀ハサン・チャン・カウイル王を埋葬し、対面のⅡ号神殿は女性の姿が彫られていたことから彼の皇后のものと思われる。墳墓とか神殿は目の当りにできるが当時の人々の生活に思いを馳せるのは難しい。食べ物はどうしていたのか？飲み水は？火は？トイレは？病気になるたら？貧しい生活

なのはどうしてこんな巨大なピラミッドを大変な労苦を費やして建設する必要があったのか？等々。遺跡としてみるのではなく、自分がその時代そこに生きていたらと考えると尽きない思いが湧いてくる。ティカル国立公園は550km²もの広大さがあるが、遺跡が散在しているのは王朝が治めていて人々が住んでいたわけだ。マヤ文明は鉄器がなく石器で石の研削をしていた。マヤ文字は表語文字として一字を意味する場合と音節文字を組み合わせて読みだけを表す場合もある複雑である。ホンジュラスのコパン遺跡の神聖文字の階段は有名で、王朝の歴史を石に文字で記録してある。そのくせ驚いたことにグアテマラは郵便制度が2016年に廃止になっていて手紙は一切出せない。どうして？カナダの援助で郵便制度が確立したが、近年カナダがその費用を請求してきたのでやめてしまったとか。バナナやコーヒー農園もアメリカ資本が牛耳っていてグアテマラ政府の最大の収入は米国への出稼ぎ者からの送金だとか。中南米諸国の発展を祈る。

東日本大震災と原発の悲惨な事故から早くも九年が経つが、濁流に家屋や橋が飲み込まれる情景は私たちの脳裏に焼き付いている。悲惨な事故は個人の幸福や安全に留まらず国家・社会に関する日本人の考え方の土台を崩してしまった。

水上瀧太郎の「銀座復興」は関東大震災（大正十二年九月一日）で壊滅的破壊にあった銀座を舞台に、復興に賭ける「人間力」を見事に描いた作品である。作者瀧太郎は大正から昭和十五年（三月逝去）

にかけて『三田文學』を中心に活躍した作家である。代表作に『大阪の宿』、評論集『貝殻追放』（いずれも岩波文庫）があるが、サラリーマンの視点から（本人は作家とサラリーマンを併進）サラリーマン生活の実態をリアリズムの筆をもって作品化したこと

に特色がある。表題の「銀座復興」は焼け野原の銀座で牟田が一軒の小屋の脇に建てる水道管の水を発見することから始まる。人の力による水道が震災に負けずに機能していることは人間力を象徴している。何時の時代も組織の歯車であるサラリーマンにとってストレス解消を飲食に

しず張りの小料理屋で酒とおでんで商売を始める主人は起業家であり、サラリーマンの牟田が社会の進歩を信じる精神と共鳴しあっている。一方で、「銀座滅亡説」や災害を天譴に結び付ける「先生」の悲観的な言葉も飛び交う。牟田は「ビルディングだつて続々建つ。煉瓦積の模造品は

せる。はち巻夫婦の心意気に刺激されて銀座復興の会が結成され、街に再建の槌音が響く。はち巻に集まった町内会の人々は「銀座復興万歳。」を叫びながら銀座の大通りに繰り出す。「銀座復興」は不条理な災害に抗して立ち上がる人間力とその連携を見事に描き出した作品である。

て復興が確かな歩みを始めたことを示している。短編の名手と言われた瀧太郎の短編の中でも秀逸な作品である。一方、「遺産」では混乱する世間で安易なヒューマニズムを許さない人間関係が描かれる。大震災の惨状を直視し復興の言葉を丹念に拾い集めることによって、瀧太郎は「震災文学」の新しいジャンルの魁を果たしたと言える。

水上瀧太郎

『銀座復興』を読む

樟 喬太郎



『銀座復興』は、単行本でなく短編集に収められている

求めるが、牟田にとって銀座は良く通う場所であり、疎外された自己の回復を図る場所として銀座の復興は切実な問題である。銀座復興に立ち上がる被災者の言葉は、はち巻の主人（小料理屋）の「復興の魁は料理にあり」のスローガンに現れる。焼け野原でよ

つぶれたが、今度はあの位の地震では潰れない、鉄骨の建物がずらりと並ぶよ。」と東京再建を叫ぶ。「帝都復興の第一線の勇士」を自認するはち巻の主人は「そうでしょうねえ、復興しないってさせてみせらあ。日本人じゃあねえか。」と啖呵をきって見

同書に収められた「九月一日」は震災に遭遇した登場人物達が余りのショックに自失呆然とした姿を描いた作品である。「果樹」は新妻の待つ家にいそくと急ぐ新吉が登場する。サラリーマンの幸福が家庭にあり、映画や買い物を楽しむ場面を描く事によつ

現在、瀧太郎の作品は『大阪の宿』『貝殻追放』（岩波文庫）、『貝殻追放』（全三冊、慶應義塾大学出版会）で入手可能である。また、三月には瀧太郎の研究書として『水上瀧太郎の文学―サラリーマン小説誕生―』（和泉書院）が出版された。同書は大正から昭和初期の激動する時代に翻弄されるサラリーマンの実態を、『大阪の宿』を中心に解明している。また、瀧太郎文学の本質である「虚偽を糾す正義感と時流に迎合しない批判精神」を「貝殻追放」の諸編を対象として究明している。同書を通じて情報過多の時代に物の本質を究めることの大切さを痛感する。ご一読をお勧めしておきたい。

恭子の日記 ㉑

天のはからい

昔、昔は何もなかった。自分や家族に食べさせるためにいろんな工夫をし、米を作り、そして家族や周りの人が喜ぶことを自分の喜びとした。そして人々は豊かになるともつと豊かなことを、もつと楽な事といつものまにか方向性を変え、周りの人の喜びを自分の喜びとすること以上に自分だけの豊かさを望む人も出てきた。

自分さえ豊かなら、自分さ



幸せ (中田恭子さんの画)

え樂ができたら他の人の喜びを自分の喜びとすることなどそんなに考えない人も増えて来た。オレオレ詐欺など、自分の楽しか考えてない仕事だ。生きるということは修行。嫌な試練は自分や先祖がうっかりミスをしたことを帳消しにできるように天が与えたもの。良いことをするのは未来を作る子供たちへの貯金。詐欺は長く生きてきたお年寄りに敬意を表するなどこ

ろか、人の人生の貯金を騙して奪い取ろうという、天の怒りをかう仕業。それが今の世の中になつてしまったと思う。近頃はお天気もおかしくなつて来た。コロナも世界中に恐怖を広げている。天が怒っている。

私は「ノアの方舟」を思い出した。天はすべての人間をいとおしんで自分の姿に似せて作られたはずなのに、作られた人間はだんだんと神が人間に与えた慈愛を忘れ、自分のための幸せだけを考え始めてしまった。天にいただいた「愛で思いやる素晴らしい幸せ」を忘れ、過分な欲や利益のために戦うようになった。良心と悪意の戦いの始まりだ。

その昔、原爆という災いで人々は幼子や愛しい人々たちを失った。天の怒りを知った時、人々は自分たちがやってはいけない行為を繰り返した戦いの世を反省し、自分の子供たちのために祈って祈って祈つたに違いない。私たちはその平和への真剣な祈りのおかげで、戦争のない70数年を送ることができた。

てついつい相手に対する感謝より、自分の幸せだけを考えるようになってしまったのだと思う。天は仕方なく、恐怖を与え、何が1番大事なのかと考えさせられているのだと思う。

私たちはまだそのことに気がつかずトイレットペーパーを買ったたり、マスクを高く値で売つたり。それは慈愛とは程遠い、自分だけのためにやっていることなのだ。人を思いやり自分のものを分け与えて、困った時だからこそ助け合うその気持ちをもう一度思い起こさなければ天は許してはくれないだろう。こんな非常事態にお金儲けを考えている人がいるから世の中はなかなか許してもらえない。命が一番大事と言うことを天が教えてくれているのだから、家族の命、幼い者の命、歳をとった人たちの命を深く考えるチャンスを下さつたと思う。トイレットペーパーがなくなつたら買いに行けばいい。そしてそこにはいつもトイレットペーパーが並んでいる。ティッシュも然り。マスクも競いやつて買い占めるのではなく、自分の持っている

ものを少し人に分けて与える。そうするとマスクはなくなり、そのことをよくよく考えて天に許しを乞うべきだと思ふ。私たちは真剣に、今こそ天の大きな力、大きな教え、大きな恵みを深く深く考えるべきだと思ふ。

横浜 画柳会代表 中田恭子

前回の絵は「上野の森美術館の選抜作家」というコンクールに出展。262名の作家が出品をし30人賞をいただくことができました。私がいいただいたのは「人気アーティスト賞」です。桂由美先生やゴーギャンのお孫さんや日本の画廊の館長さんが審査員です。お客さんは5000人入り、その中の投票で決まるのが人気アーティスト賞です。3人いただきました。今回は天にいただいた慈愛を描きました。この気持ち、幸せさえあれば他に大切なものは何も無いのだ、という気持ちで描きました。この絵は10月にリトアニアに渡り、杉原敏財団の平和展に飾られる予定です。

生存証明

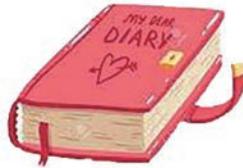
東京 江東区 前島 咲子

末期がんの夫を自宅で看取って、ちょうど12年になる。夫の死後、何をやる気力もなく、1日1日を漂うように生きていた。私もそう長く生きられないだろうと、毎週往診してくれた医師も考えていたという。

いま思えば、なぜそんなことを始めたのか分からないのだが、夫の死から数か月たって、私は日記を書き始めた。それも、その日の出来事ではなく、前日はどういう生活だったかを書くというやり方で。前日までは確かに生きていたことの、アリバイ証明のような感じだった。

以来、日記は習慣として続いている。だいたい1日2000字から3000字くらい。パソコンで書くので、手書きに比べて負担は少ないし、忘れていたことを後に改めて思い出して追加もできる。何時に起き、天気はどうで、体調はどうだったか。何

を調理し、食べたか。だれとどんな話をし、どんな本を読み、音楽を聴いたか。印象に残った人や言葉、記事、映画なども書き留めた。



かくして、いまや私の日記は、ファイルに放り込まれた雑多な記憶の捨て場所になっている。アウトプットされるばかりで、インプットされることはほとんどない。ただ、この12年間の私の生きて来た証拠としてのみ存在している。誰かに読んでもらいたいか、記録として残したいわけではない。

娘は、「いつでも削除してあげるよ」という。それで十分だ。

余録

今号にも掲載された歴史物の阿部敏夫さんが本誌に曰く「あの岸・安倍の原稿を書いたのは、私の山形工業高校機械科の同窓生の下山保さん」とのこと。驚いて上下編の初寄稿でいただいた下山さんに問うと「そうだよな奇遇だよな。新聞部と文芸部の仲で卒

編集後記

今号はまるでコロナ特集号になりましたが、本タウン誌は脱稿から発行まで1ヶ月

程の時差が生じるので読者におかれてはご理解いただきたい。想定外(笑)とも言える興味深い原稿が寄せられて編集部は感激です。

されば10部配布を引き受けて下さる方は是非誌までメールを下さい。在仏のアルプ京子さんは家庭改革を説き、同じパリの坂田画伯はフランス政府のコロナとの闘いを批判しつつ自らの感触を伝える。憲法シリーズには広田氏がコロナ危機を政権が悪

業以来会ってないな。懐かしい」。更に、ある読者から「妻が以前に毎日新聞で紹介された中田恭子さんに感銘してファンとなり、展示会にも見に行つて、新聞を切り抜いて壁に貼つてある」そうだ。早速中田さんに知らせると、自作のカレンダーをいただいたので「枠を買つてきて壁に飾つて」あるそうです(東京・Yさん)。またこんな便

用しないかと懸念を抱く。日仏のコロナとの戦い方の違いを比較してみたい。

サラリーマン作家の草分けを研究した労作を大部の『水



上瀧太郎の文学』で発表された樟喬太郎氏は初めて本誌に短編『銀座復興』を紹介してくれた。氏の著作購入をご希望の方は当誌まで問い合わせ

りもいただいた、「今回は在宅時間がいっぱいあることもあつたLife Crossing、隅から隅まで読ませてもらいました。面白かつた! 投稿者の人生の厳しい現実を赤裸々に表現される勇氣ある姿勢に身が引き締まりました。中田恭子さんの親子の絵もいいですね。子育ての時、自分はこのママではなかつた! と反省」(西宮・KHさん)

下さい。

もう一人の初投稿は中国通の経済人、田辺氏。彼は中国人が嫌われる訳を温たかく解析するが中国人は如何に読むかな? 筆者の方々には折り

あればまた寄稿を期待しています。山形出身の東北人、阿部氏は維新で東北人の悲劇を嘆き明治時代の復権の夢をつづり、本誌を通じて消息を確認しあつた高校の同窓の友人下山氏は因縁なのか、長州出身の同名異漢字の安倍首相との闘いに執念を燃やす。本誌が皆さんの手に届く頃にはコロナが終息に向かい、皆さんもコロナに打ち勝っていることをお祈りしております。

コロナ中の世界 ベーシックインカムと

新社会ルール

映画監督 増山 麗奈

(東京日野市)

長期化が明らかとなった、新型コロナウイルス。最前線で働いてくれている医療関係者の方々に感謝申し上げます。各地でロックダウンなどの政策を進めています。皮肉

なことに、過剰な経済活動が止まったことで、宇宙から見た大気汚染がなくなり、水も透明度を増しています。地球にとっては良い変化でもあるかもしれません。



「2020年2月28日国民全員に20万円の給付を財務省に求める請願を提出しました」
協力・日本経済復活の会小野誠司先生、その隣・増山麗奈さん

あらゆる面で変化が起きました。「24時間戦えますか」「風邪でも休めないあなたへ」健康や家族を犠牲にして労働することを是とする風潮が消え、いのちを第一にする行動が求められるようになりました。特筆すべき大きな変化は、世界的にベーシックインカム、現金給付による社会保障が進んだことでしょう。

4人家族166万円のアメリカ、
国民に14万円給付の香港、
ドイツは申請2日後に振込

コロナウイルスとの戦いは、感染を最小限に抑えること。

個人としてできるのは「家にいる」「マスクや手洗いを徹底」につきます。当たり前ですが、みんなが自宅待機をしていたら、経済は止まります。

家賃が払えません。そのため、各国では、自粛と現金給付がセットで行われています。最初に生活保障を決めたのは、香港です。永住権を持つ

た国民に14万千円を給付し、韓国では、仕事を失ったフリーランスに月4万4千円の緊急生活安定支援金を支給。1400万人の中間層には3人家族で7万2千円を支給。カナダでは、コロナの影響で隔離を余儀なくされた人に15万4千円が支給されます。アメリカでは一人最大13万円が支給されます。フランスでは自宅待機中の家賃光熱費無償にするほか、コロナウイルスで収入が7割以上減った事業者に対して、一律18万円の支給。ドイツではインターネットによる申請から2日後に、

60万円〜80万円の振り込みが即時行われました。

日本でも、国民全員に一律10万円の給付が発表されました。一歩前進ですが給付時期が遅かったり麻生大臣が申告した人のみにしようなど、煮え切りません。また中小零細企業向けに20万円の貸付（一部は返済を免除）、休校により仕事を休まなければならない労働者へ1日8300円上限での企業への賃金補助という助成もあります。しかし、前年度青色申告でマイナスと申請した業者は対象外、雇用保険を6か月、2人以上を雇用していないと対象外など、様々な条件があり、申請は簡単ではありません。申請数1000件、交付件数わずか6件。東大に入学するより狭き門！（呆）です。

『万を擬して』発表された「かつてない」「大胆な」日本のコロナ対策の政策は、

『一家庭布マスク2枚』

天国ですっこける志村けんさんの姿が目につかびます。安倍さん、国民が欲しいのはマスクではありません。現金

給付さえあれば皆マスクを買うし、各自で作ります。小池百合子都知事は、バーなどの店舗に行かないように要請しましたが、飲食店の経営で生活が成り立っている側の立場には立てないようです。お金は働いて稼ぐもの、働かざる者食うべからず、という日本の慣習が、現金給付を拒んでいるように見えます。

しかし、一人一人の命がなければ仕事もできないという原点に立ち返るべきです。今、現金給付を行えなければ、大量の感染者と死者が生まれ、オリンピックどころではありません。国が、地域が、社会が、私が、あなたが、終わるのです。

千葉市は「集まらなくていい」新しいテレワークによる市役所の運営、インターネット授業を中心とした教育機関のあり方を提案しました。今までの常識を捨て、一から社会や雇用、仕事を見つめなおす時期なのではないでしょうか。一人でも多くの命と暮らしをまもるアイデアを形にして、コロナ中&後の社会をなるべく楽しんで過ごしましょう。まずは：現金給付と自宅待機！

(4月17日加筆修正)